

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



2024年12月20日、ルサカ州保健局にて開催された病院マネジメントハンドブック第1回執筆会議で議論する執筆メンバーたちの様子。

病院マネジメント
ハンドブックの
第1回執筆会議を
ルサカ州保健局にて
開催

ルサカ州の看護リ
ーダーがグッドプラク
ティスの継続実施を
奨励

2025年国別研修
に向け、研修参加予
定者の
準備は万端



病院マネジメントハンドブックの第1回執筆会議をルサカ州保健局にて開催



ルサカ州保健局にて、病院マネジメントハンドブックの第1回執筆会議の執筆メンバーたちとの集合写真。

2024年12月20日、5つの対象一次レベル病院、ルサカ郡保健局、ルサカ州保健局、JICAカシオペアプロジェクトからなる執筆メンバーが集まり、病院マネジメントハンドブックの草案の執筆を開始しました。本ハンドブックは、対象病院で実施されている病院マネジメントの取り組みを他の病院でも実施できるように紹介することを意図しています。

執筆委員会の立ち上げと執筆メンバーの指名は、2024年6月26日に行われました。これは、対象5病院の既存の取り組みである戦略的計画策定（バランススコアカード）、定期的で一貫性のある会議、病院マネジメント委員会などを標準化する文書が必要であることにプロジェクト関係者が合意したためです。執筆会議の開催までには数回の延期を経ましたが、この度、開催に至りました。

執筆委員会は、州保健局の臨床ケア専門家、計画担当官、薬剤師と郡保

健局の計画担当官、結核・HIVコーディネーター、病院の院長、計画担当者、臨床ケア部長、病院事務長で構成されています。執筆メンバーは、現実的で長く使われるハンドブックを作成するには、より多くの関係者が執筆プロセスに参加する必要があることに合意しました。今回追加された関係者は、病院の看護部長と情報担当者です。

対象5病院の喫緊の課題は、行動計画の進捗よく状況を把握するモニタリングの強化と行動計画の実施能力を強化する質改善（QI）の強化です。

ルサカ州保健局長に替わり、臨床ケア専門家のソフィア・ムシスカ氏は、病院マネジメント能力向上のための文書の起草に参加者が貢献したことを賞賛しました。JICAカシオペアプロジェクトのチーフアドバイザーである村井真介氏も、病院マネジメントハンドブックはプロジェクト目標の達成に必須であり、この会議は大きな前進であると述べました。

ルサカ州の看護リーダーがグッドプラクティスの継続実施を奨励

2024年12月13日、ルサカ州の看護リーダーたちがレヴィ・マナワサ大学教育病院に集まり、2024年第4四半期の交流訪問プログラムで学んだグッドプラクティスを共有しました。

この交流訪問プログラムは、2024年7月11日に開催された看護リーダー会議での、ルサカ州看護主任担当官のイヌトゥ・バングウェタ氏の提案から発展したものです。同氏は当時、病院の現状を改善し、州の看護師の能力向上が必要であると熱弁をふるいました。

レヴィ・マナワサ大学教育病院の院長であるチャールズ・ムテンバ氏は歓迎の挨拶の中で、「リーダーを対象とした会議や交流で学んだこ

とを共有することで、医療施設を訪れる患者にとってより良い経験につながる」とその重要性を指摘しました。ムテンバ氏は、「スタッフの態度が悪かったり、清潔とは言えない院内環境であったりすることで、患者が病院に来るのを恐れるのはよくない」と話し、医療施設の顔として看護職員がすべての患者を歓迎するよう激励しました。

ルサカ州の臨床ケア責任者であるソフィア・ムシスカ氏は、州保健局長に替わって挨拶し、四半期ごとに看護リーダー会議と病院監査が継続して実施されていることを喜びました。また、重要なサービスである看護・助産活動を一貫して担う、看護チームの献身的な姿勢に称賛の言葉を述べました。

その一方で、ムシスカ氏は、州内で妊産婦の死亡事例が続いていることや、看護スタッフのみならず他の医療従事者の自殺が増加していることに悲しみを表しました。より良い患者アウトカムの実現に向けて、職員の協力を呼びかけると同時に、お互いに関心を持ち合うことで、仲間の自殺を未然に防止することを奨励しました。

JICAカシオペアプロジェクトのチーフアドバイザーである村井真介氏は、世界中の看護師が患者安全など多くの革新的な取り組みを行っていることを紹介し、「ザンビアの看護師が病院医療サービスの革新的な取り組みの先駆者となることを期待している」と述べました。



第4四半期の看護リーダー交流訪問プログラムで発言しているクララ・ムレンガ氏。

2025年国別研修に向け、研修参加予定者の準備は万端

感染予防管理（IPC）ラウンドの目的のひとつは、患者がよりよいサービスを受けられる環境を実現する方法を見つけることで、異なる部門間の協力を推進することです。

チレンジェー一次レベル病院（FLH）のIPCチームによって、IPCラウンドが成功裏に実施される中、2025年1月16日から30日まで日本で開催される国別研修

に備えて、研修参加予定者が続々とIPCラウンドに参加しています。

今回は、研修参加予定者の中では最後のグループとなる医療機器技術者のクリス・カルバ氏（チレンジェー一次レベル病院）、ポール・シバンダ氏（カニャマー一次レベル病院）、ラックソン・マンドゥク氏（チパター一次レベル病院）、ルサカ郡保健局の臨床ケア部

長であるチョルウェ・シアンチャパ氏が参加しました。参加者は、各部門がIPCプロトコルをどのように実践しているかを見学し、部門が直面する課題を理解できました。

この経験は、国別研修のテーマの一つである他職種連携を理解し、議論する際に役立つはずです。



上: IPCラウンド中のIPCチームメンバーと訪問中の医療機器技術者たちの様子。
下: IPCラウンド参加者の集合写真。

上: IPCラウンド中のIPCチームメンバーと訪問中の医療機器技術者たち。
下: オンラインチェックリストに記入している医療機器技術者たちの様子。

PHOTO FOCUS



病院マネジメントハンドブックの第1回執筆会議時の執筆メンバーたちの様子。



ルサカで開催された第4四半期看護リーダー会議にて、ルサカ州保健局のムシスカ氏が、挨拶をしている様子。



ルサカ州保健局長のチョオンガ氏が、2024年12月12日に開催された疫学準備会議で歓迎の挨拶を行っている様子。



2025年1月に開催予定のKCCPの参加者がJICAザンビア事務所でのビザオリエンテーションに参加している様子。



2024年12月13日に開催された看護リーダー会議で発言中の村井チーフアドバイザー。



チャワマー次レベル病院のチコンカ氏が、看護リーダー会議で質問をしている様子。



編集・デザイン: コンベ カパタモヨ
編集: 緒方 敬
編集長: 村井 真介

連絡先
村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka,
10101, ZAMBIA

Cell: +260 765 192 865 (official)

プロジェクトの発展に大きく貢献した現地スタッフ、ロイド・ムワンザ氏。新天地でのさらなる活躍を期待!

Japan International Cooperation Agency